

総合科学教育研究センター教員個人業績

凡 例

以下は、秋田県立大学総合科学教育研究センター所属教員の2017年1月1日から2017年12月31日までに公表あるいは実施された主な業績を示すものである。業績の分類は、以下の5つのカテゴリに従った。

- I 著書・学術論文等
- II 学会報告等
- III 社会活動・受賞等
- IV 講演・公開講座等
- V その他の活動

高橋 秀晴 教授

I 著書・学術論文等

*学術論文等

1) 高橋秀晴「編集者の功罪―滝田樗陰と谷崎潤一郎―」『上越教育大学国語研究』（上越教育大学国語教育学会）2017年2月18日、第31号、27～37ページ（単著）

*講演録

1) 高橋秀晴「今求められる国語の力とは―〇年後の社会を想定しつつ―」『研究紀要』（秋田県高等学校教育研究会国語部会）2017年3月、第53号、3～10ページ（単著）

II 学会報告等

*学会報告

1) 高橋秀晴「金子洋文宛て今野賢三書簡―一九一三（大正二）年～一九一七（大正六）年六月―」秋田風土文学会、2017年2月18日（於：あきた文学資料館）

III 社会活動・受賞等

*社会活動

1) 秋田県立秋田南高等学校学校評議員、2005年4月～

2) 秋田県高等学校教育研究会国語部会顧問、2006年7月～

3) あきた文学資料館収集検討委員、2007年4月～

4) 秋田県脳血管研究センター医薬品受託研究審査会委員、2007年11月～

5) 秋田市公文書管理委員会委員、2013年5月～

6) 秋田県青少年健全育成審議会副会長、2014年4月～

7) A B S秋田放送番組審議会委員長、2014年7月～

8) 秋田県文化財保護審議会委員、2014年9月～

9) 秋田市立佐竹資料館寄贈および寄託事前審査会委員、2014年10月～

10) 秋田県立秋田高等学校同窓会常任理事、2014年10月～

11) 私大・短大パワーアップ支援事業審査委員会委員、2015年4月～

12) 秋田県総合政策審議会会長代理、2016年4月～

13) 秋田県総合政策審議会教育・ひとづくり部会長、2016年4月～2017年3月

14) 秋田県総合政策審議会企画部会委員、2016年6月～

15) 秋田県地方創生有識者会議委員、2016年6月～

16) 秋田県総合政策審議会地域を支える人材育成部会長、2017年4月～

*学会活動

1) 日本近代文学会東北支部運営委員、1995年5月～

2) 日本社会文学会評議員、2007年7月～

3) 地域文化研究会 AKITA 事務局長、2009年4月～

4) 日本社会文学会理事、2011年6月～

- 5) 日本近代文学会東北支部長、2014年7月～
- 6) 日本近代文学会評議員、2014年7月～
- 7) 秋田風土文学会会長、2015年2月～
- 8) 「種蒔く人」顕彰会幹事、2016年4月～
- 9) 日本文学協会委員、2016年12月～
- 10) 秋田風土文学会総会運営、2017年2月18日
- 11) 「種蒔く人」顕彰会副会長、2017年6月17日～
- 12) 日本近代文学会東北支部夏季大会運営、2017年7月15日
- 13) 秋田風土文学会文学踏査運営、2017年8月19～20日
- 14) 日本近代文学会東北支部冬季大会運営、2017年12月23日

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 真砂婦人学級講座「高井有一作品を読む」2016年1月20日（於：西部市民サービスセンター）
- 2) 高井有一先生をしのぶ会「高井有一文学の軌跡」2017年1月21日（於：グランデールガーデン）
- 3) 市民おもしろ塾「近代文学に描かれた能代」2017年4月22日（於：能代市中央公民館）
- 4) 平成29年度あげまき会総会講演「夢二・秋声と山田順子－秋田高女卒の女性作家が伝えること－」2017年7月9日（於：秋田キャッスルホテル）
- 5) 平成29年度あきたスマートカレッジ／あきた教養講座「太宰治「魚服記」－文学的原風景の表象－」2017年7月29日（於：生涯学習センター）
- 6) 教員免許状更新講習「秋田の近代文学」2017年7月31日（於：秋田県立大学）
- 7) 将来設計ガイダンス「パネルディスカッション」2017年8月6日（於：秋田県総合教育センター）
- 8) 将来設計ガイダンス「学問別ガイダンス」2017年8月7日（於：秋田県立大学）
- 9) 平成29年度あきたスマートカレッジ／あきた教養講座「太宰治「駈込み訴へ－中期における一つの結実－」」2017年8月26日（於：生涯学習センター）
- 10) 平成29年度あきたスマートカレッジ／あきた教養講座「太宰治「桜桃」－晩年の境地を描く－」2017年9月16日（於：生涯学習センター）
- 11) 第60回秋田市芸術祭／第49回秋田市民文芸大会講演「幻の雑誌がよみがえる－『月刊さきがけ』復刻版－」2017年9月24日（於：秋田市文化会館）
- 12) 文学から学ぶ女性の活躍講座「山田順子作品を読む／竹久夢二との日々・「オレンジエート」」2017年11月13日（於：中央市民サービスセンター）
- 13) 文学から学ぶ女性の活躍講座「山田順子作品を読む／自意識の表象・「雨足駄」」2017年11月20日（於：中央市民サービスセンター）
- 14) 文学から学ぶ女性の活躍講座「山田順子作品を読む／自伝的随筆・「夢と現実」「雪しろと花紫の秋田」」2017年11月27日（於：中央市民サービスセンター）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 平成28年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「新資料による金子洋文研究」（課題番号24520221）
研究代表者
- 2) 大学コンソーシアムあきた平成28年度学際的研究プロジェクト「秋田県の活性化のための調査研究」
共同研究者
- 3) 平成29年度秋田県立大学学長プロジェクト研究費「創造的研究」『『中央公論』主幹滝田樗陰と大正文学—編集者の機能と功罪をめぐって—』研究代表者
- 4) 平成29年度学長プロジェクト研究費「科研費チャレンジ研究」『新資料・旧蔵資料による『種蒔く人』
主要同人今野賢三の研究』研究代表者

* 報告書等

- 1) 「秋田県の地域活性化における、観光資源としての芸術（地域民族芸能・アート・デザイン・文学等）
の活用並びに、秋田総合ブランドの構築に向けた調査研究」（2016度大学コンソーシアムあきた共同
研究報告書）2017年3月（共著）
- 2) 「新資料による金子洋文研究」（科学研究費補助金報告書）2017年5月（単著）
- 3) 「新資料による金子洋文研究」（科学研究費助成事業研究成果報告書）2017年6月（単著）

* 新聞・雑誌掲載等

- 1) 「二〇一六年度秋季三重大会報告／呉恵升氏研究発表印象記」『社会文学通信』2017年5月1日、第
106号、5ページ（単著）
- 2) 「近代文学に描かれた能代」『北羽新報』2017年6月29日（単著）
- 3) 「永之介顕彰に尽力した長女／岡里首子を悼む」『秋田魁新報』2017年9月25日（単著）

* 記事・取材協力等

- 1) 「高井さんの思い出語る／仙北市で故人をしのぶ会」『秋田魁新報』2017年1月22日
- 2) 「100キロマラソン番組合評／秋田放送番組審議会」『秋田魁新報』2017年2月28日
- 3) 「秋田放送番組審議会／「シュライフ」年始特番合評」『秋田魁新報』2017年3月28日
- 4) 「支部だより／東北支部」『会報』（日本近代文学会）2017年4月1日、第126号、46ページ
- 5) 「近代文学と能代に焦点」『北羽新報』2017年4月22日
- 6) 「秋田放送番組審議会／「あきたに住みます」合評」『秋田魁新報』2017年4月26日
- 7) 「秋田放送番組審議会／「廃校でベンチャー」合評」『秋田魁新報』2017年5月31日
- 8) 「秋田放送番組審議会／「秋田で学ぼう～」を合評」『秋田魁新報』2017年6月28日
- 9) 「「高井有一文庫」整備へ／新潮社記念文学館（仙北市）／遺族、資料の大半を寄贈」『秋田魁新報』
2017年9月20日
- 10) 「秋田放送番組審議会／チャリティーひろば合評」『秋田魁新報』2017年9月21日
- 11) 「夢二が愛した秋田の女性たち／恋の跡、人生と作品に」『秋田魁新報』2017年9月22日
- 12) 「あげまきの心を感じ合う喜び」『あげまき』（あげまき会）2017年10月16日、第26号、1ページ
- 13) 「総会報告」『あげまき』（あげまき会）2017年10月16日、第26号、1ページ
- 14) 「情報チャンネルa／近代文学から学ぶ女性の活躍」『広報あきた』2017年10月20日、第1899号、23ページ

ジ

15) 「秋田放送番組審議会／「every+」3本合評」『秋田魁新報』2017年10月26日

16) 「秋田放送・番組審議会／「アレカラ～」高評価」『秋田魁新報』2017年12月1日

* 被書評・引用・言及等

1) 「1930年前後における経済小説の萌芽—プロタリア文学派と振興芸術派との接近—」『秋田大学教育文化学部研究紀要／人文・社会科学』2017年3月、第72集、52、60ページ

2) 『月刊さきがけ』解題』『月刊さきがけ』復刻版／別冊』2017年7月30日、47ページ

渡部 諭 教授

I 著書・学術論文等

* 学術論文等

1) 久保田力・杉山朗子・渡部諭「家庭と学校における自分の色イメージ等に関する覚書—イメージ調査結果第1次データ集計を振り返って—」『印度学宗教学会論集』、2017年、第43号（共著）

II 学会報告等

* 学会報告

1) 吉村治正・佐々木てる・正司哲朗・澁谷泰秀・渡部諭・小久保温「標本抽出フレームの違いがもたらす態度測定への影響」日本行動計量学会第45回大会、2017年8月29日～9月1日（於：静岡県立大学）

2) 吉村治正・佐々木てる・正司哲朗・澁谷泰秀・渡部諭・小久保温「Web 調査の偏りは非回答によるか、標本抽出フレームによるか—二つの比較実験調査より—」第90回日本社会学会大会、2017年11月4日～5日（於：東京大学本郷キャンパス）

V その他の活動

* 助成研究

1) 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域平成29年度採択、2017年10月～2020年9月

2) 大川情報通信基金「GNAT と脆弱性診断マトリクスを用いた特殊詐欺対策の効果」、2018年3月7日～2019年3月6日

* 報告書等

1) 公益財団法人電気通信普及財団報告書「携帯電話・スマートフォンによるソーシャル物理学手法を用いた高齢者の振り込め詐欺脆弱性の研究」、2017年

3) 2017～2020年度科学研究費基盤研究 (C)「包括型社会の確立に向けた地域コミュニティと教育の連携・協働についての研究」(課題番号17K04602) 研究分担者

* コーディネーター

1) 「第26回秋田市男女共生フォーラム～日本女性会議2016秋田を振り返って～」2017年1月28日於：秋田拠点センターアルヴェ 「日本女性会議2016秋田を振り返って」 コーディネーター

内山応信 准教授

I 著書・学術論文等

* Proceeding

1) Uchiyama M、Arahi Y「Influence of walking on the mental and physical condition of the elderly in a hilly country course in a semi-mountainous area.」『The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine』2017年、第6巻6号、533ページ (共著)

II 学会報告等

* 学会報告

1) 内山応信「秋田県による中高齢者向け体操プログラムの転倒予防効果の検証」第65回日本教育医学会大会、2017年8月22日(於：愛知工業大学自由が丘キャンパス)
2) 内山応信、荒樋豊「中山間地域の低高度丘陵地形を活用したウォーキングが高齢者の心身に及ぼす影響」第72回日本体力医学会、2017年9月17日(於：松山大学文京キャンパス)

* ワークショップ

1) 「日本体育学会測定評価分科会企画統計相談コーナー、基礎統計相談員」日本体育学会第68回大会、2017年9月10日(於：静岡大学静岡キャンパス)

III 社会活動・受賞等

* 社会活動

1) 第3次秋田市スポーツ振興マスタープラン策定検討委員会委員、2016年11月～2017年3月末
2) 秋田市スポーツ振興基金運営委員会委員、2016年5月～2018年3月
3) 秋田市チャレンジデー実行委員会委員、2016年4月～
4) 秋田県スポーツ科学センター成人スポーツ実施率向上事業「市町村スポーツ推進委員等に対するスポーツ活動プログラム提供」技術協力、講師、2014年10月～
5) 秋田県スポーツ科学センター AKITA スーパーわか杉っ子発掘プロジェクト実行委員会委員、2011年5月～
6) 秋田県脳血管研究センター医薬品受託研究審査委員会委員、2010年4月～
7) 秋田県スポーツ科学センターアスリート総合診断アドバイザー、2009年5月～

* 学会活動

1) 日本教育医学会常任理事、2014年8月～

2) 日本体力医学会東北地方会幹事、2012年8月～

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 秋田市旭南地区災害時要援護者支援協会「地区防災大会」講師、2017年10月5日及び15日（於：秋田市立旭南小学校及び秋田市旭南地区コミュニティセンター）
- 2) 能代子ども食堂「向のしろ子ども食堂 garden 第10回 転倒予防体操」講師、2017年9月23日（於：能代市向能代公民館）
- 3) 秋田市旭南地区災害時要援護者支援協会「地区防災大会」講師、2017年7月8日及び20日（於：秋田市旭南地区コミュニティセンター）
- 4) NPO 法人常盤ときめき隊「日曜朝市」講師、2017年6月18日、及び11月26日（於：秋田県能代市上町「咲く咲く」）
- 5) 秋田県高等教育課高校生未来創造支援事業キャリア教育総合推進事業「将来設計ガイダンス 学問別ガイダンス」講師、2017年8月7日（於：秋田県立大学秋田キャンパス）
- 6) 「秋田音頭で健康体操」講師、2017年1月31日（於：秋田県大潟村スポーレおおがた健康館）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 日本学術振興会科学研究費助成（挑戦的萌芽研究）、「易転倒高齢者の環境条件変化に対応するバランス適応能力とその日内変動の解明」（課題番号：25560371）、2013年4月～2017年3月、研究代表者
- 2) 日本学術振興会科学研究費助成（基盤研究C）、「超高齢化農村コミュニティ再生一住民意欲醸成手法の開発」（Research Project Number: 26450331）、2014年4月～2017年3月、研究分担者
- 3) 秋田県立大学平成29年度学内研究資金学長プロジェクト（科研費チャレンジ研究）「軽度な認知機能低下者の転倒リスク評価法の提案のための基礎検討」、2017年7月～2018年3月、研究代表者

* 受託研究

- 1) 秋田県山本郡三種町役場、「三種町版 DMO 計画策定及び特産品販売に関する研究調査業務委託」、2016年5月18日～2017年3月10日、研究分担者

* 報告書等

- 1) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（平成27年度）、「易転倒高齢者の環境条件変化に対応するバランス適応能力とその日内変動の解明」（課題番号：2556031）
- 2) 科学研究費助成事業成果報告書「易転倒高齢者の環境条件変化に対するバランス適応能力とその日内変動の解明」（課題番号：25560371）

* 新聞・雑誌掲載等

- 1) NHK 秋田放送局ニュースこまち、等「秋田音頭で健康づくり体操」2017年7月6日

* 記事・取材協力等

- 1) 取材協力：「常盤ときめき隊 今季最後の朝市」『秋田魁新報』2017年11月28日
- 2) 取材協力：NHK 秋田放送局「秋田音頭で健康づくり体操」について、2017年7月6日
- 3) 取材協力：ABS 放送局「水耕レタス装置を利用した地域セーフティネット構築プロジェクト」につ

いて、2017年3月17日

* 被書評・引用・言及等

- 1) 被引用：Demura T、Demura S、Uchiyama M、Sugiura H 「Examination of factors affecting gait properties in healthy older adults: Focusing on knee extension strength, visual acuity, and knee joint pain」『Journal of Geriatric Physical Therapy』2014年、第37巻2号、52～57ページ
 - ・ So B.C.L.、Kong I.S.Y.、Lee R.K.L.ら 「The effect of Ai Chi aquatic therapy on individuals with knee osteoarthritis: A pilot study」『Journal of Physical Therapy Science』2017年、第29巻5号、884～890ページ
- 2) 被引用：Kitabayashi T、Demura S、Kawabata H、Uchiyama M、Demura T 「Comparison of the body-sway characteristics of young adults compared to healthy elderly and elderly with equilibrium disorder」『Perceptual and Motor Skills』2011年、第113巻2号、547～556ページ
 - ・ Cieřlik B、Podsiadly I、Kuczyński M、Ostrowska B 「The effect of a single massage based on the tensegrity principle on postural stability in young women」『Journal of Back and Musculoskeletal Rehabilitation』2017年、第30巻6号、1197～1202ページ
- 3) 被引用：Demura S、Uchiyama M 「Influence of cell phone email use on characteristics of gait」『European Journal of Sport Science』2009年、第9巻5号、303～309ページ
 - ・ Caramia C、Bernabucci I、D'Anna C、De Marchis C、Schmid M 「Gait parameters are differently affected by concurrent smartphone-based activities with scaled levels of cognitive effort」『PLoS ONE』2017年、第12巻10号、Article number e0185825
 - ・ Magnani R.M.、Lehnen G.C.、Rodrigues F.B.、de Sá e Souza G.S.、de Oliveira Andrade A.、Vieira M.F. 「Local dynamic stability and gait variability during attentional tasks in young adults」『Gait and Posture』第55巻105～108ページ
 - ・ Krasovsky T.、Weiss P.L.、Kizony, R. 「A narrative review of texting as a visually-dependent cognitive-motor secondary task during locomotion」『Gait and Posture』2017年、第52巻、354～362ページ
 - ・ Oh C.、LaPointe L.L. 「Changes in cognitive load and effects on parameters of gait」『Cogent Psychology』2017年、第4巻1号、Article number 1372872
- 4) 被引用：Uchiyama M、Demura S 「The role of eye movement in upright postural control」『Sport Sciences for Health』2009年、第5巻1号、21～27ページ
 - ・ Dallas G、Mavidis A、Dallas C、Papouliakos S 「Gender differences of high level gymnasts on postural stability: The effect of ankle sprain injuries」『Science of Gymnastics Journal』2017年、第9巻3号、291～301ページ
- 5) 被引用：Uchiyama M、Demura S 「Low visual acuity is associated with the decrease in postural sway」『Tohoku Journal of Experimental Medicine』2008年、第216巻3号、277～285ページ
 - ・ Hill C.M.、DeBusk H.、Knight A.C.、Chander H. 「Influence of military-type workload and footwear on muscle exertion during static standing」『Footwear Science』2017年、第9巻3号、

169～180ページ

- 6) 被引用 : Matsuda S、Demura S、Uchiyama M 「Centre of pressure sway characteristics during static one-legged stance of athletes from different sports」『Journal of Sports Sciences』2008年、第26巻7号、775～779ページ
- Shirabe N.A.、da Silva R.A.、Oliveira M.R.、Nowotny A.H.、Sturion L.A.、Gil A.W.O.、Andraus R.A.C.、Carvalho A.P.F. 「Atletas de taekwondo tienen mejor control postural que atletas de handball y fútbol Americano」『Revista Brasileira de Medicina do Esporte』2017年、第23巻6号、473～476ページ
 - Galli M.、Cimolin V.、Rigoldi C.、Moro M.、Loi A.、Pau M. 「Postural sway in adolescent athletes: A comparison among volleyball, basketball and gymnastics players」『Gazzetta Medica Italiana Archivio per le Scienze Mediche』2017年、第176巻10号、515～520ページ
 - Jung H.、Kim H.J.、Kim B.-R.、Lim D. 「Alterations of human responses by varying dynamic rotational perturbations on balance training equipment」『International Journal of Precision Engineering and Manufacturing』2017年、第18巻9号、1269～1274ページ
 - Bigoni M.、Turati M.、Gandolla M.、Augusti C.A.、Pedrocchi A.、La Torre A.、Piatti M.、Gaddi, D. 「Balance in young male soccer players: dominant versus non-dominant leg」『Sport Sciences for Health』2017年、第13巻2号、253～258ページ
 - Epishev V.V.、Ryabina K.E.、Isaev A.P.、Erlikh V.V. 「Postural balance in middle-distance runners」『Russian Journal of Biomechanics』2017年、第21巻2号、144～154ページ
 - Chok C.L.、Joseph S. 「The instantaneous effects of generic foot arch support insoles on centre of foot pressure in various modes of static balance」『IFMBE Proceedings』2017年、第58巻、25～32ページ
 - Paillard T. 「Plasticity of the postural function to sport and/or motor experience」『Neuroscience and Biobehavioral Reviews』2017年、第72巻、129～152ページ
- 7) 被引用 : Demura S、Kitabayashi T、Uchiyama M 「Body sway characteristics during static upright posture in young children」『Sport Sciences for Health』2006年、第1巻4号、158～161ページ
- Fabri T.L.、Wilson K.E.、Holland N.、Hickling A.、Murphy J.、Fait P.、Reed N. 「Using a dual-task protocol to investigate motor and cognitive performance in healthy children and youth」『Gait and Posture』2017年、第54巻1号、154～159ページ
- 8) 被引用 : Noguchi T、Demura S、Nagasawa Y、Uchiyama M 「An examination of practice and laterality effects on the purdue pegboard and moving beans with tweezers」『Perceptual and Motor Skills』2006年、第102巻1号、265～274ページ
- Bravi R.、Cohen E.J.、Martinelli A.、Gottard A.、Minciocchi D. 「When non-dominant is better than dominant: Kinesiotape modulates asymmetries in timed performance during a synchronization-continuation task」『Frontiers in Integrative Neuroscience』2017年、第11巻、Article number 21

* 学術論文査読

- 1) 『Human Performance Measurement』(日本体育測定評価学会)、論文(英文)査読1件、査読3回(リバイス2回)

宮本 雲平 准教授

I 著書・学術論文等

*学術論文等

- 1) Ogasawara, K., Harada, T., Miyamoto, U. and Igata, T. 「Escape probability of the super-Penrose process」『Physical Review D』(American Physical Society) 2017年6月9日、第95巻、第12号、124019、1～10ページ(共著)
- 2) Miyamoto, U. 「Non-linear perturbation of black branes at large D」『Journal of High Energy Physics』(International School for Advanced Studies) 2017年6月6日、第06(2017)巻、第033号、1～25ページ(単著)
- 3) Sotani, H. and Miyamoto, U. 「Sensitivity of pulsar light curves to spacetime geometry and efficacy of analytic approximations」『Physical Review D』(American Physical Society) 2017年11月14日、第96巻、第104018号、1～20ページ(共著)

II 学会報告等

*学会報告

- 1) 宮本雲平「Large-D 極限におけるブラックブレーンの非線形摂動」日本物理学会2017年秋期大会、2017年9月14日(於:宇都宮大学)
- 2) Miyamoto, U. 「Non-linear perturbation of black branes at large D」The 27th Workshop on General Relativity and Gravitation in Japan、2017年11月30日(於:広島大学)

IV 講演・公開講座等

*講演・公開講座

- 1) 秋田県立大学 学生・アドミッションチーム主催、ハイレベル数学講座「数学で解く物理の世界 I～III」2017年3月9日および28～30日(於:秋田県立大学本荘キャンパス)
- 2) 秋田県立大学創造工房主催、創造楽習「LaTeX でかっこいい論文を書こう:数式を自由自在に書けるようになる」2017年6月19～20日(於:秋田県立大学本荘キャンパス)
- 3) 秋田県教育委員会主催、高校生将来設計ガイダンス、学問別ガイダンス「物理学」2017年8月7日(於:秋田県立大学秋田キャンパス)

V その他の活動

*助成研究

- 1) 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)「ワームホール形成における爆発的粒子生成と超伝導回路を用いたその再現実験の提案」研究代表者、1,040,000円

鈴木 祐丞 助教

I 著書・学術論文等

* 著書

- 1) セーレン・キェルケゴール『死に至る病』（講談社学術文庫）2017年4月10日（翻訳、単著）

* 学術論文等

- 1) 鈴木祐丞「秋田県における哲学のニーズと寄与について 公開講座秋田哲学塾の開催を通じて」『秋田県立大学ウェブジャーナル A』（秋田県立大学ウェブジャーナル編集委員会）2017年3月31日、第4号、63～70ページ（単著）
- 2) 鈴木祐丞「斎藤喜博の教育論の今日的意義(2)」『秋田県立大学総合科学研究彙報』（秋田県立大学総合科学教育研究センター）2017年3月31日、第18号、19～26ページ（単著）

II 学会報告等

* 学会報告

- 1) 鈴木祐丞「なぜキェルケゴールは『完結の全集』のアイデアを断念したのか、あるいは、『死に至る病』の出版にこめられた意味——NB6からNB11を読む」キェルケゴール協会第18回学術大会、2017年7月2日（於：京都女子大学）

* 学会報告座長

- 1) 日本ショーペンハウアー協会第30回全国大会 日本ショーペンハウアー協会・キェルケゴール協会共催シンポジウム「「神なき時代」をどう生きるか——キェルケゴール・ニーチェ、ショーペンハウアーにおける宗教と科学——」、2017年11月25日（於：杏林大学）

III 社会活動・受賞等

* 学会活動

- 1) キェルケゴール協会理事、2016年7月～
- 2) キェルケゴール・セミナー世話人代表、2017年7月～
- 3) 実存思想協会幹事、2017年8月～
- 4) 日本哲学会『哲学』外部査読者、2017年7月

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 秋田県立大学部局間研究交流フォーラム「キェルケゴール研究のこれまでとこれから」、2017年6月5日（於：カダレー）
- 2) 平成29年度高校生未来創造支援事業 将来設計ガイダンス 学問別ガイダンス「哲学」、2017年8月7日（於：秋田県立大学）

小松田 儀貞 准教授

I 著書・学術論文等

* 著書

小松田儀貞「アートプロジェクトの可能性ーローカルな文化事業の評価をめぐってー」AKIBI plus 事務局他編『辺境芸術最前線ー生き残るためのアートマネジメント』秋田公立美術大学、2017年、48～55ページ（単著）

* 学術論文等

- 1) 小松田儀貞「社会的実践としての「ナラティブ」ー地域医療・福祉の現場でー」『秋田県立大学総合科学教育研究彙報』2017年、第18号、9～17ページ（単著）
- 2) 小松田儀貞「秋田の円空伝ー地域資源としての文化財ー地域における文化資本の可能性」『秋田県立大学ウェブジャーナル A』2017年、第4号、104～114ページ（単著）

II 学会報告等

* 学会報告

- 1) 小松田儀貞「社会的実践としての「ナラティブ」ー地域医療・福祉の現場からー」第64回東北社会学会大会、2017年7月17日（於：東北学院大学）

* 研究会報告

- 1) 小松田儀貞「アート化する社会／社会化するアートーアートプロジェクトの可能性と課題」社会理論研究会、2017年9月2日（於：東洋大学）

III 社会活動・受賞等

* 社会活動

- 1) エフエム秋田番組審議会委員、2008年4月～（副委員長2010年4月～）
- 2) 秋田うつくしま県人会事務局、2011年7月～
- 3) 秋田県立博物館協議会委員（副会長2013年7月～、会長2015年7月～2017年6月）
- 4) 日本女性会議2016秋田実行委員会（副委員長2015年5月～2017年3月）
- 5) 秋田市男女共生推進会議委員（副委員長2016年4月～）
- 6) 秋田市男女共生推進会議専門委員会委員（委員長2016年6月～）
- 7) 秋田市小・中学校適正配置推進委員会委員（2016年6月～）
- 8) 第26回秋田市男女共生フォーラム実行委員会（副委員長2016年11月～）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 2015～2018年度科学研究費基盤研究（C）「高度化する現代医療における市民協働とシティズンシップの可能性に関する社会学的研究」（研究課題番号：15K03850）研究代表者
- 2) 2014～2016年度科学研究費基盤研究（C）「地域コミュニティに基盤を置いた社会的包摂と包括的キャリア教育に関する研究」（研究課題番号：26381090）研究分担者 *延長

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 日本学術振興会科学研究費（若手研究 B）「日記を活用した後期キェルケゴール思想の研究」（課題番号16K16704）、2016年4月～2019年3月、研究代表者
- 2) 平成29年度秋田県立大学部局提案型研究推進事業（部局推進型研究）「秋田県における哲学のニーズと寄与についての研究」、研究代表者

* 新聞・雑誌掲載等

- 1) 鈴木祐丞「絶望せよ、生の意味をめぐる問いの答えのなさを前にして——キェルケゴールが『死に至る病』で言いたかったこと」『本』（講談社）、2017年5月1日、48～49ページ

* 記事・コラム・取材協力等

- 1) 「教育機関との協働」『2017年度プラン・インターナショナル年次報告書』、2017年12月、26ページ

* 被書評・引用・言及等

- 1) 柳沢貴司「セーレン・キェルケゴール著、鈴木祐丞編訳『キェルケゴールの日記——哲学と信仰のあいだ』書評」『新キェルケゴール研究』（キェルケゴール協会）2017年5月15日、第15号、119～124ページ
- 2) 「死に至る病 セーレン・キェルケゴール著 鈴木祐丞訳 講談社学術文庫」『綴葉』（京大生協綴葉編集委員会）2017年10月10日、第361号、9ページ

* 翻訳等

- 1) ヨーキム・ガルフ「『私は何を見つけたのか？ 私の「私」ではなかった』——キェルケゴールの日記と、仮名の自伝著述について」（Joakim Garff, “What did I find? Not my I’: On Kierkegaard’s Journals and the Pseudonymous Autobiography,” in *Kierkegaard Studies Yearbook 2003*, Walter de Gruyter: Berlin/New York 2003, pp. 110-124.）『新キェルケゴール研究』（キェルケゴール協会）2017年5月15日、第15号、66～87ページ

その他

- 1) 公開講座「秋田哲学塾」の主催、2017年4月16日（哲学カフェ「幸せとは何か」）、5月14日（哲学カフェ「ふるさと」）、10月1日（「イルカ漁について考える」）、12月17日（哲学カフェ「献血と骨髄バンク」）
- 2) ラジオ出演、エフエム秋田「mix」2017年12月14日

渡部 昌平 准教授

I 著書・学術論文等

* 著書

- 1) 渡部昌平編『実践家のためのナラティブ／社会構成主義キャリア・カウンセリング』（福村出版）2017年5月15日（共著）
- 2) 菅原良・松下慶太・渡部昌平・木村拓也・神崎秀嗣編『キャリア形成支援の方法論と実践』（東北大

学出版会)、2017年11月30日(共編著)

* 学術論文等

- 1) 渡部昌平「教育相談に解決志向アプローチを導入する効果と課題—教育とカウンセリングの違いに着目して—」『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2017年3月31日、第18号、27～30ページ(単著)
- 2) 渡部昌平「教科教育における効果的・効率的なアクティブ・ラーニングとは—「特定の型」ではない学習プロセスを追求する—」『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2017年3月31日、第18号、31～36ページ(単著)

* proceedings

- 1) 渡部昌平「社会構成主義を理解・実践する(2)社会構成主義を平易に理解する」雇用問題研究会『職業研究』2017, No.1(単著)
- 2) 渡部昌平「キャリア・カウンセリング研究において配慮すべき倫理」委員会企画シンポジウム『キャリア教育に関する研究と実践の倫理をめぐって—近年の動向と学会の姿勢を考える—』キャリア教育研究2017年3月31日、第35巻第2号、76～77ページ(単著)
- 3) 渡部昌平「社会構成主義を理解・実践する(3)他の技法との比較」雇用問題研究会『職業研究』2017, No.2(単著)
- 4) 渡部昌平「社会構成主義を理解・実践する(4)課題」雇用問題研究会『職業研究』2017, No.3(単著)

II 学会報告等

* 学会報告

- 1) 渡部昌平「教育相談で如何に成長・発達を促すか—やる気が継続しない学生に対するナラティブ・アプローチ事例の検討—」日本発達心理学会第28回大会、2017年3月26日(於:広島国際会議場)
- 2) Shohei, WATANABE "Career Education to the students who don't have confidence by narrative approach" Asian Regional Association for Career Development, 2017年5月18日(於:シェラトンソウルパレス漢南ホテル)
- 3) 渡部昌平「社会構成主義(ナラティブ)カウンセリングの産業分野への展開—事例にみる効果と課題の検討」東北心理学会、2017年7月15日(於:尚綱学院大学)
- 4) 渡部昌平「経験を積みながらキャリア・カウンセリングを行う」日本ブリーフサイコセラピー学会、2017年7月30日(於:愛媛大学)
- 5) 渡部昌平「学生ポートフォリオを用いた、学生自身によるキャリア形成に関する課題についての検討」日本リメディアル教育学会、2017年8月22日(於:日本文理大学)
- 6) 渡部昌平「不安が強い学生に対するナラティブ・キャリア・カウンセリング」日本産業カウンセリング学会、2017年8月27日(於:関西外語大学)
- 7) 渡部昌平「キャリア・カウンセラーとクライアントの受け取り方の違い—体験過程尺度を用いた検討」日本キャリアデザイン学会、2017年9月2日(於:成城大学)
- 8) 渡部昌平「在職者に対するメールによるナラティブ・キャリア・カウンセリングの効果と課題」日本キャリア教育学会、2017年10月15日(於:上越教育大学)

* ワークショップ・シンポジウム

- 1) ラウンドテーブル・ディスカッション「社会構成主義／ナラティブアプローチの実践～生き方が語られる場とは」、日本産業カウンセリング学会、2017年8月27日（於：関西外語大学）
- 2) 会員企画シンポジウム「自らの生き方が語られる「場」あるいは「きっかけ」－我々は当事者の語りを聞いているか」、日本キャリア教育学会、2017年10月15日（於：上越教育大学）

* 学会報告座長

- 1) 個人研究・事例発表 A、日本産業カウンセリング学会、2017年8月27日（於：関西外語大学）

III 社会活動・受賞等

* 社会活動

- 1) 秋田県地域訓練協議会会長、2012年6月～
- 2) 秋田県ジョブ・カード運営本部会議委員長、2012年11月～
- 3) (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会会長、2015年4月～
- 4) キャリア・コンサルティング技能検定 指定試験機関技能検定委員、2017年5月～ ほか

* 学会活動

- 1) 日本産業カウンセリング学会 理事（2014年9月～）広報委員
- 2) 日本キャリア教育学会 資格認定委員会委員（2015年4月～2017年3月）北海道・東北地区部会幹事（2017年4月～）
- 3) 日本教育カウンセラー協会秋田支部 事務局次長（2015年10月～2016年7月）理事（2016年8月～2017年9月）事務局員（2017年10月～）
- 4) 日本産業カウンセリング学会 学術論文査読
- 5) 日本教育カウンセリング学会 編集査読協力委員（2016年3月～）

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 日本産業カウンセラー協会秋田支部 自殺防止研修「発達障害について」、2017年2月25日（於：にぎわい交流館 AU）
- 2) 新潟県立三条テクノスクール 就職講演会「キャリア・カウンセリング」、2017年3月3日（於：新潟県立三条テクノスクール）
- 3) 日本キャリア教育学会北海道・東北研修地区部会講演「ナラティブ・アプローチを教育に生かす～相談から教育への拡張」、2017年3月18日（於：弘前大学）
- 4) 中学校新任進路指導主事研修講座「中学校におけるキャリア教育」、2017年6月8日（於：秋田県総合教育センター）
- 5) 沖縄県産業カウンセラー協会総会「実践家のためのナラティブ／社会構成主義キャリア・カウンセリング」、2017年6月25日（於：沖縄県建設会館）
- 6) 小学校英語教育研修「教育相談」、2017年8月5日6日（於：秋田大学）
- 7) 教員免許状更新講習「成長を引き出す教育相談～解決志向・予防・開発のカウンセリング技法」、2017年8月10日（於：秋田県立大学）
- 8) 教員免許状更新講習「失敗しないアクティブ・ラーニング～児童・生徒の視点から考える」、2017年

8月17日（於：秋田県立大学）

- 9) 教員免許状更新講習「キャリア教育と日常の接続～自己理解と協力・学びの必要性の理解」、2017年9月9日（於：秋田県立大学）
- 10) 小学校キャリア教育推進研修講座「小学校だからこそキャリア教育」、2017年10月19日（於：秋田県総合教育センター）
- 11) 中小企業診断士協会秋田支部「一步進んだ良い職場づくり～従業員のやる気を起こす職場の雰囲気はどうつくるか～」、2017年11月25日（於：アトリオン多目的ホールC）
- 12) 日本産業カウンセラー協会秋田支部こまち会研修「グループの力～効果と課題を理解する」、2017年12月2日（於：秋田県老人福祉センター）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 日本キャリアデザイン学会奨励研究「効果的なナラティブ・キャリア・カウンセリングの教授・研修方法に関する研究」（2017年9月～2018年8月）

白山 雅彦 教授

I 著書・学術論文等

* 学術論文等

- 1) 白山雅彦「本学の教職課程の在り方についての考察～学外調査結果及び学生の学校現場体験等の報告からの第二報～」『秋田県立大学総合科学教育研究彙報』（秋田県立大学総合科学教育研究センター）2017年3月1日、第18号、63～75ページ（単著）
- 2) 白山雅彦「教育実習に向けた教職課程における指導の在り方に関する考察～今年度の教育実習の成果と課題をもとに～」『秋田県立大学総合科学教育研究彙報』（秋田県立大学総合科学教育研究センター）2017年3月1日、第18号、77～93ページ

III 社会活動・受賞等

* 社会活動

- 1) 一般財団法人秋田県高等学校定時制通信制教育振興会理事、2013年4月～
- 2) NPO法人あきた・まなVIVA! 創造塾理事、2013年4月～
- 3) 秋田県立秋田南高等学校・中等部外部評価委員、2016年5月～
- 4) AAB秋田朝日放送番組審議会委員、2016年9月～
- 5) 秋田県教員育成協議会委員、2016年9月～
- 6) 財団法人理数教育研究所主催「第7回リケジョ（理系女子）をめざそう in 秋田」実行委員、2017年11月11日、於：秋田市民交流プラザ アルヴェ
- 7) 「天王小学校5年生へのプログラミング教室」本荘Cの廣田千明先生をリーダーとする指導教員の一人として、2017年11月27日、12月11日、於：秋田県立大学秋田キャンパス コンピュータ実習室

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 平成29年度由利耕心大学講座（高齢者を対象とした生涯学習講座）「これからのIT社会への対応～バーチャル（仮想）とリアル（現実）の境目がない世界をどう生きるか～」、2017年10月10日（於：由利本荘市西目公民館シーガル）

高橋 守 教授

I 著書・学術論文等

* 学術論文等

- 1) Mamoru Takahashi & Stephen Shucart、「A Chronotopic Study of the Novels of Wallace Stegner and Chester Himes」、『秋田県立大学総合科学研究彙報』（秋田県立大学総合科学教育研究センター）2017年3月31日、第18号、37-44ページ（共著）

II 学会報告等

* 学会報告

- 1) Mamoru Takahashi、「Amazing Effect of ER」、全国語学教育学会（JALT）分野別研究部会2017年次大会、2017年5月21日（於：国際教養大学）
- 2) Stephen Shucart & Mamoru Takahashi、「Plot-driven Versus Character-driven Stories」全国語学教育学会第43回年次国際大会、2017年11月18日（於：つくば国際会議場）

III 社会活動・受賞等

* 学会活動

- 1) 全国語学教育学会秋田支部役員（会計担当役員2015年10月～）
- 2) 日本モデル協会 第9回日本モデルムート投稿論文査読委員、2017年11月

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 大学高校連携授業講師「高校生英語セミナー」、2017年9月4日、10月2日、10月16日（於：秋田県立大学）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 文部科学省科学研究費、基盤研究（C）「多読支援クラウドの構築に関する研究」（課題番号17K01119）研究分担者

檜山 晋 教授

<p>I 著書・学術論文等</p> <p>* 学術論文等</p> <p>1) Hiyama, Susumu. 「Element Order in The Blickling Homilies: Part VIII」『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2017年3月1日、第18号、45～53ページ(单著)</p>
<p>V その他の活動</p> <p>* 講演・公開講座</p> <p>1) 大学高校連携授業「由利高等学校・秋田県立大学英語連携授業」、2017年5月15日、5月22日、5月29日(於：秋田県立大学本荘キャンパス)</p> <p>2) 「学問別ガイダンス(英語学・言語学)」、2017年8月7日(於：秋田県立大学秋田キャンパス)</p>

岡崎 弘信 教授

<p>I 著書・学術論文等</p> <p>* Proceeding</p> <p>1) 木戸和彦、橋本信一、福田衣里、<u>岡崎弘信</u>「ターケンスの埋め込み定理を組み込んだ Neural Network の BP 法を用いたテストスコアの短期予測」『第33回ファジーシステムシンポジウム講演論文集』(日本知能情報ファジィ学会) 2017年9月、63～68ページ(共著)</p>
<p>II 学会報告等</p> <p>* 学会報告</p> <p>1) Inakawa K、Hashimoto S、Nitta H、<u>Okazaki H</u>「Approach toward the construction of an automated tailor-made curriculum」Euro CALL 2017、2017年8月23～26日(於：The University of Southampton, UK)</p> <p>2) 木戸和彦、橋本信一、福田衣里、<u>岡崎弘信</u>「ターケンスの埋め込み定理を組み込んだ Neural Network の BP 法を用いたテストスコアの短期予測」第33回ファジーシステムシンポジウム、2017年9月13～15日(於：山形大学)</p>
<p>III 社会活動・受賞等</p> <p>* 社会活動</p> <p>1) 秋田県芸術文化振興基金補助金審査委員、2015年4月～</p> <p>2) 由利高等学校29年度第2学年「課題研究」発表会講師、2017年11月24日(於：文化交流館カダール)</p> <p>* 学術論文査読</p> <p>1) ATEM Journal vol.22(1本)</p>

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 由利高等学校・秋田県立大学英語連携授業、2017年10月23日、11月13日、11月27日（於：秋田県立大学本荘キャンパス）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 日本学術振興会科学研究費（基盤研究（B））、「テラーメイド型教育カルテの構築と学習最適化の研究」（研究課題番号25282061）、2013年4月～2018年3月、研究代表者
- 2) 日本学術振興会科学研究費（挑戦的萌芽研究）、「工学的手法を用いた英語リスニング教材における難易度自動判定の研究」（研究課題番号15K12420）、2015年4月～2018年3月、研究代表者
- 3) 日本学術振興会科学研究費（基盤研究（B））、「航空管制の安全を脅かす母語話者の発音の乱れと対策の研究」、2016年4月～2019年3月、研究分担者

* 特許審査請求

- 1) 名称「外国語の難易度判定装置」（特願2014-166158）（第一発明者）2017年8月

Terri L. Nagahashi 教授

III 社会活動・受賞等

* 社会活動

- 1) 秋田花まるっグリーン・ツーリズム「秋田グリーン・ツーリズムまるごと体験研（第3回）秋田市重松の家」2017年1月15日
- 2) 鳥海高原菜の花まつりボランティア、2017年5月20日（於：由利本荘市矢島町城内字桃野）
- 3) Odate Monitor Tour 9月5日～7日
- 4) NHK, AKT, ABS News broadcast on Odate Monitor Tour 2017年9月7日
- 5) Odate Newspaper article on Odate Monitor Tour 2017年9月7日
- 6) Akita Sakigake Newspaper article on Odate Monitor Tour 2017年9月14日
- 7) 秋田花まるっグリーン・ツーリズム「秋田グリーン・ツーリズムまるごと体験研（第1回）Higashiyuri, Yurihonjo」2017年10月7日 and（第2回）Daisen City」2017年10月28日29日
- 8) Akita Sakigake Newspaper article on Akita Green Tourism Supporter Tour 2017年10月11日
- 9) 財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業「秋田の農家民泊一体験から持続的交流へ」ボランティア、2017年11月4日5日、26日
- 10) Kahoku Newspaper article on "Find Your Third Hometown" tour 2017年11月9日
- 11) あきたキイチゴ利活用研究会研究員、2008年～（於：秋田県、五城目町）
- 12) 秋田県立秋田北鷹高等学校 スーパーサイエンスハイスクール・アドバイザー 2014年～

IV 講演・公開講座

* 講演・公開講座

- 1) Intercultural exchange coordinator and host for Daniella Brengelmann, School of Public Health, University of Washington, USA. 2017年11月11日～11月20日
- 2) Akita regional development tour coordinator and host for Helene Kristina Littmarck Holmdahl, co-owner of Finngården Rikkenstorp, Grangesberg, Sweden. 2017年8月29日～9月11日
- 3) University of Guam (UOG) Incoming Tour Planner 2017年4月～
- 4) 秋田県立秋田中央高等学校（スーパーサイエンスハイスクール）「*Introduction to Sustainability*」
2017年12月9日（於：秋田中央高等学校）

スティーヴン・シュカート 准教授

I 著書・学術論文等

* 学術論文等

- 1) Mamoru Takahashi & Stephen Shucart, 「A Chronotopic Study of the Novels of Wallace Stegner and Chester Himes」、『秋田県立大学総合科学研究彙報』（秋田県立大学総合科学教育研究センター）
2017年3月31日、第18号、37-44ページ（共著）

II 学会報告等

* 学会報告

- 1) Stephen Shucart & Mamoru Takahashi, 「Plot-driven Versus Character-driven Stories」全国語学教育学会第43回年次国際大会、2017年11月18日（於：つくば国際会議場）

III 社会活動・受賞等

* 学会活動

- 1) 全国語学教育学会秋田支部役員（広報担当役員1999年6月～）
- 2) 全国語学教育学会 CALL-SIG「CALL-EJ」査読委員

IV 講演・公開講座

* 講演・公開講座

- 1) 大学高校連携授業講師「高校生英語セミナー」、2017年6月12日、7月3日（於：秋田県立大学）

加賀谷 真澄 准教授

<p>II 学会報告等</p> <p>* 学会報告</p> <p>1) 加賀谷真澄「貧民の空間—明治の貧困表象」2017年日本比較文学会東北支部大会、2017年11月11日 (於：あきた文学資料館)</p>
<p>III 社会活動・受賞等</p> <p>* 社会活動</p> <p>1) 日本比較文学会東北支部役員、2013年6月～ 2) 秋田県立秋田高等学校同窓会150年史編集準備委員、2014年8月～ 3) 秋田県観光文化スポーツ部主催「あきたの文芸」小説・評論部門選考委員、2015年4月～ 4) 秋田県男女共同参画審議会委員、2015年10月～ 5) 秋田県男女共同参画審議会：座長、2017年2月2日(秋田県庁) 6) 秋田県観光文化スポーツ部主催「あきたの文芸」小説・評論部門選考会：座長、2017年9月28日(秋田県庁)</p>
<p>IV 講演・公開講座等</p> <p>* 講演・公開講座</p> <p>1) 高大連携授業：コーディネーター、「あきた異文化コミュニケーション講座」、2017年9月30日(於：にぎわい交流館 AU)</p>
<p>V その他の活動</p> <p>* 助成研究</p> <p>1) 日本学術振興会科学研究費(挑戦的萌芽研究)、「米国における苦学生の実態的研究—明治期から大正期にかけて」(研究課題番号15K12859)、2015年4月1日～2018年3月31日、研究代表者</p> <p>* 選評</p> <p>加賀谷真澄「3年間を振り返って」『あきたの文芸』(秋田県)、2017年11月13日、第50集、74～75ページ</p>

江口 真規 助教

<p>I 著書・学術論文等</p> <p>* 学術論文等</p> <p>1) Eguchi, Maki. 「Metaphoric Use of the Figures of Animals and Sheep: US-Japan Interracial Relationship Written in the Stories of <i>Rashamen</i>」 『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター) 2017年3月1日、第18号、55～61ページ(単著)</p> <p>* 抄録等</p>

- 1) 江口真規「日本の文学・文化研究におけるアニマル・スタディーズの動向」『ヒトと動物の関係学会誌』（ヒトと動物の関係学会）2017年3月、第46号、35ページ（単著）
- 2) 江口真規「羊に取り憑かれた者たち——村上春樹作品における羊の「魅惑」——」『2017年度第6回村上春樹国際シンポジウム予稿集』（淡江大学村上春樹研究センター）2017年7月8日、127～134ページ（単著）

II 学会報告等

* 学会報告

- 1) 江口真規「日本の文学・文化研究におけるアニマル・スタディーズの動向」ヒトと動物の関係学会第23回学術大会、2017年3月4日（於：東京大学）
- 2) 江口真規「羊に取り憑かれた者たち——村上春樹作品における羊の「魅惑」——」2017年度第6回村上春樹国際シンポジウム、2017年7月8日（於：同志社大学）
- 3) 江口真規「川端康成『伊豆の踊子』における自然の表象——英訳との比較から」日本比較文学会2017年度東北大会、2017年11月11日（於：あきた文学資料館）

* 研究会報告

- 1) 江口真規「ブリティッシュ・ライブラリー調査報告：Sudhindra Nath Ghose について」日本学術振興会科学研究費（基盤研究（C））「国際ペンクラブと世界文学史の相関——日中印外交と英連邦史、欧州史」（研究課題番号：16K02607）2017年度第2回共同研究会、2017年11月19日（於：国土館大学）

III 社会活動・受賞等

* 社会活動

- 1) 2018年度フルブライト語学アシスタント（Fulbright Foreign Language Teaching Assistant）プログラム審査委員、2017年9月

* 学会活動

- 1) 日本比較文学会東北支部幹事、2017年8月～

IV 講演・公開講座等

* 講演・公開講座

- 1) 平成29年度高校生未来創造支援事業 将来設計ガイダンス 学問別ガイダンス（比較文学・英米文学）担当、2017年8月7日（於：秋田県立大学）

V その他の活動

* 助成研究

- 1) 日本学術振興会科学研究費（若手研究（B））「文学・文化研究におけるアニマル・スタディーズの発展と動向」（研究課題番号：17K17977）、2017年4月～2019年3月、研究代表者
- 2) 日本学術振興会科学研究費（挑戦的萌芽研究）「米国における苦学生の実態的研究—明治期から大正期にかけて」（課題番号：15K12859）、2016年6月～2018年3月、研究分担者
- 3) 日本学術振興会科学研究費（基盤研究（C））「国際ペンクラブと世界文学史の相関——日中印外交と

英連邦史、欧州史」(研究課題番号：16K02607)、2016年10月～2019年3月、研究協力者

* その他

1) 「2016年夏期グアム語学研修報告書」引率者レポート (秋田県立大学国際交流室)、2017年2月16日